

宇部市文化振興まちづくり審議会 会議概要

日 時：令和 2 年(2020 年)1 月 28 日（火）15：00～16：45

場 所：宇部市文化会館 2 階 第 1 研修室

出席者：委員 8 人

事務局：庄賀観光・C P 部長、安光観光・C P 部参事

荒武文化・スポーツ振興課副課長

高下文化・スポーツ振興課副主幹

酒井文化振興係長 中島主任

1 議事

(1)「UBEアートフェスタ（UBEビエンナーレ×まちじゅうアートフェスタ）について（開催報告）、事務局より説明。

(会長) 事務局から事業についての説明があった。

これだけの期間にこれほど多くのイベントを実施するのは日程の調整やスタッフの休日出勤など大変だったろう。

参加者も 2 年毎に増加しており、このイベントもかなり定着してきたのではないだろうか。

UBEビエンナーレが開催以来 50 年以上経ち、彫刻以外のアートにも市民が少しずつ目を向けはじめる素地ができあがってきた。

まだ、UBEアートフェスタの知名度は低いですが、やはり継続的に実施することが大事となっていくことだろう。

彫刻だけでなく、いろいろなアートが宇部にはある。

宇部だけではないが、アートを広く考えるということが少しずつ広がってきている。

このようなイベントは、根気よく繰り返し実施することが大事。

(委員) イベントの数が多いのは驚いた。

しかし、これだけイベントづくしだと、職員も地元の役員の方々も疲弊しないか心配である。

また、同日にイベントが重ならないかも心配である。

(委員) シャトルバスは、予想より多くの利用があった。

私も乗った。しかしながら、バス停にシャトルバスの時刻表が貼られていなかったのので、困った人も多かったのではないか。

私自身は、高齢ということもありクルマの運転は控えているのでこのようなシャトルバスの運行は助かる。

(委員) これだけの人に参加しているとは驚いた。

しかし、不思議なことに、私の周りでは、UBEアートフェスタを知らない人も多かった。

どんなに、PRしても、届かないところには届かないのだろうか。

テレビなどを使うと、PR費も相当なものだろうし、何か新しい媒体を検討もしなくてはならないだろう。

また、並行して、コアなファンを口コミなどでも少しずつ増やしていく必要があるだろう。

イベントを知ったのは、ポスターが意外に多いので、原始的なやり方だが、評価し直すことも必要だと感じた。

(委員) 若い人は、SNSやスマホで情報を入力していることが多いが、なかなかそれに対応できていないのではないか。

UBEアートフェスタのサイトもつくっているようだが、アクセス数は多いとは言えない。

今の時代、サイトをつくれれば、事足りるというわけでもないのに、周知はなかなか難しい。

(委員) 今回の愛称である「UBEアートフェスタ」だが、これが前面にでて「UBEビエンナーレ」の文言が少々薄れてしまった嫌いがある。

どこかの新聞では、「UBEアートフェスタ」スタートとあった。やはり、これは「UBEビエンナーレ」スタートとして欲しかった。

核になるのは、「UBEビエンナーレ」。これに「UBEアートフェスタ」がついてくるのが適当ではなかっただろうか？

つまり「UBEビエンナーレ×UBEアートフェスタ」というイ

メージがより望ましいのではないか。

2021年の際には、名称を再検討していただきたい。

(委員) 芸術祭の主会場である、文化会館・記念会館はやはり、駐車場不足に悩まされた。

せっかく良い行事があっても、駐車場に入れないので、帰られる人が多くいる。

是非、駐車場の増設などの改善をお願いしたい。

(委員) やはり今回も、各イベントがばらばらに開催されていることは否めない。

しかし、これだけのイベント量があれば、調整するもの大変だろうろうし、20万人も参加しているなら、逆にイベントは分散するほうが望ましいのかもしれない。

(委員) 宇部市出身の馬場良治先生など、地元の画家の展覧会やギャラリートークなどがあったのは良かった。

地元の活性化になるので、次回も地元在住のアーティストと連携してもらいたい。

(委員) 予想されたことだが、若年層の参加は少ないようだ。

特に、10代、20代は、少ない。子どもがいる30代は、子ども用イベントがあれば連れてきているのだろう。

60代以上が43%となると、暇もお金もある人達にイベントの機会を提供していることになる。

それが一概に悪いとは言えないが、若い世代と文化の断絶というものが起きているのではないか。

子育て世代以外に、暇なはずの10代、20代が合わせて10%しか参加していないのが非常に気になる。

(委員) 来場者は78%が宇部市内とあるが、山陽小野田や阿知須・小郡なども市外とカウントされると考えると、現実ほぼ市内客と考え

てよいだろう。

市外からの誘客をしなければダメとは言わないが、現実はこのようになっている。市民が参加して楽しむイベントということであれば、それはそれでよいのではないかと思う。

(委員) アンケートは回収が214枚、特に、うべの里アートフェスタは、10枚なので、サンプル数としては少なすぎる。
もう少し、多く集めた方がよい。

(委員) 「写真家と一緒にいく」ツアーバスに参加したが、写真家の方の詳しい説明がもっとあれば良かった。

(2) (仮称)UBEアートコミュニティ組織の設立についての説明を、事務局から行う。

(会長) 何分、初めての取組であり、まだ事務局からの説明を聞いてもよくわからないところはあるかと思う。

東京や札幌で先進事例があるからといって、そのままそのやり方を持ってくるのも難しいし、どのように考えているのか、私も興味があるところだ。

(委員) アートや文化財の案内なら、既に宇部市ふるさとコンパニオンが実施している。彫刻案内や「てくてくまち歩き」など、宇部市でも先進事例がある。

(委員) 決められたことをお手伝いするようなボランティアの制度は、今の宇部市文化創造財団のサポーターという似た制度があるがこちらにも、サポーターの発展段階として、「自主文化活動」というステージを設定している。

そのような意味では、このアートコミュニティと財団サポーターとは、親和性は高いと感じる。

なお、市民が自主的・主体的に文化活動を行うということは、本来、望ましい姿ではあるが、どのように募集をしようと考えて

いるのか？

(事務局) 今年度、アートコミュニケーターに関する研修会を3回開催しており、さらに、市民大学環境・アート学部の受講生の中に関心を持っている人がいる。

来年度、市民大学環境・アート学部の中に、基礎講座を4回、別に実践講座を2回開催する予定である。

市民大学既卒業生など、一定の条件の下、アートコミュニケーターの講座のみ参加できるようにしたいとも考えている。

(委員) 市から、活動の依頼や方向性が示されそれに沿って動くようになるのか？

また、アートコミュニケーターが実際に活動するスケジュールを教えていただきたい。

(事務局) 市が、「アートコミュニケーター」に、活動内容を指図することはない。

あくまでも、市民の自主的な活動と考えている。

ただ、文化活動を行われるにあたっては、こういった活動もあるのではないかと、例示することはあるかもしれない。

また、スケジュールに関しては、2020年度に講座を開設し、2021年度から自主的に動いてもらえたらと考えている。

(委員) 市の支援体制はどのようになっているのか。

市民が自主的・主体的に文化事業を行うのは非常に良いことだが、当分の間又は継続的に、支援が必要ではなからうか。

(事務局) 市としては、「アートコミュニケーター」が、日常活動するための、場所を提供できないかどうか考えている。

また、活動に伴う、消耗品程度は支援したいと考えている。

さらに、しばらくの間は、「アートコミュニケーター」のサポート役として、宇部市文化創造財団と連携して、1名専属の職員を配置できないかどうか検討中である。

(委員) 専属の職員の業務内容はどのようなものか

(事務局) 基本的には、アートコミュニケーターの活動内容に関する相談が主なものと考えている。

アートコミュニケーターが、自主的・主体的に活動できるようサポートすることだが、文化イベント自体の事務局やアートコミュニケーター間の連絡・調整などは考えていない。

あくまでも、文化活動は、アートコミュニケーターが自主的に、実施することを想定しているものである。

(会長) 「アートコミュニケーター」なかなか、面白そうな取組だ。

宇部市文化創造財団にも、財団友の会やサポーターなどがあるので、こちらと連携しながらやっていくことも大事だろう。

今年度には、(仮称)UBEアートコミュニティという組織も市が主導して設立されるとのこと、今後も節目節目で、審議会において、アートコミュニケーターの動向を教えていただきたい。